

福島第一原子力発電所 増設多核種除去設備（B）の運転再開および  
増設多核種除去設備（C）の運転停止について

< 参 考 資 料 >  
2 0 2 1 年 6 月 8 日  
東京電力ホールディングス株式会社  
福島第一廃炉推進カンパニー

- 2020年10月27日に点検を行っていた増設多核種除去設備(以下、増設ALPS)(B)の運転再開にあわせ、バッファタンク出口の水を採取したところ若干の白濁を確認、さらにクロスフローフィルタ（以下、CFF）ドレンラインにおいて濃い白濁を確認したことから増設ALPS(B)を停止しました。なお2020年10月27日にバッファタンク出口から採取した水のカルシウム（以下、Ca）濃度は4ppmであり、ALPS出口処理水への核種除去性能への影響はないものと考えています。 [<2020年11月4日 お知らせ済み>](#)
- 2021年5月28日に増設ALPS(B) CFFのフィルターエレメントの交換を完了しました。現在復旧準備中で、6月14日に増設ALPS(B)の運転を再開する予定です。
- 2021年6月5日に増設ALPS(C)バッファタンク出口の水を採取したところCa濃度が高いことを確認、さらにCFFドレンラインにおいても若干の白濁を確認したことから増設ALPS(C)を停止しました。なお、バッファタンク出口から採取した水のCa濃度は17ppm※であることを確認しましたが、早期に停止したことから、ALPS出口処理水への核種除去性能への影響はないものと考えています。また、今後、増設ALPS(C)CFFについてもフィルターエレメントを交換します。
- なお、増設ALPS(A) については、今月からフィルターエレメント交換作業のために設備を停止する予定としておりましたが、CFFろ過水のCa濃度に若干の上昇傾向が確認（白濁なし）されていることから、当初予定していた工事を前倒しし、本日（6月8日）からCFF 6基のフィルターエレメントの交換作業を実施し、7月以降、運転再開となる見込みです。
- 日々の水処理に必要な処理設備は確保できており、現時点で影響はありません。

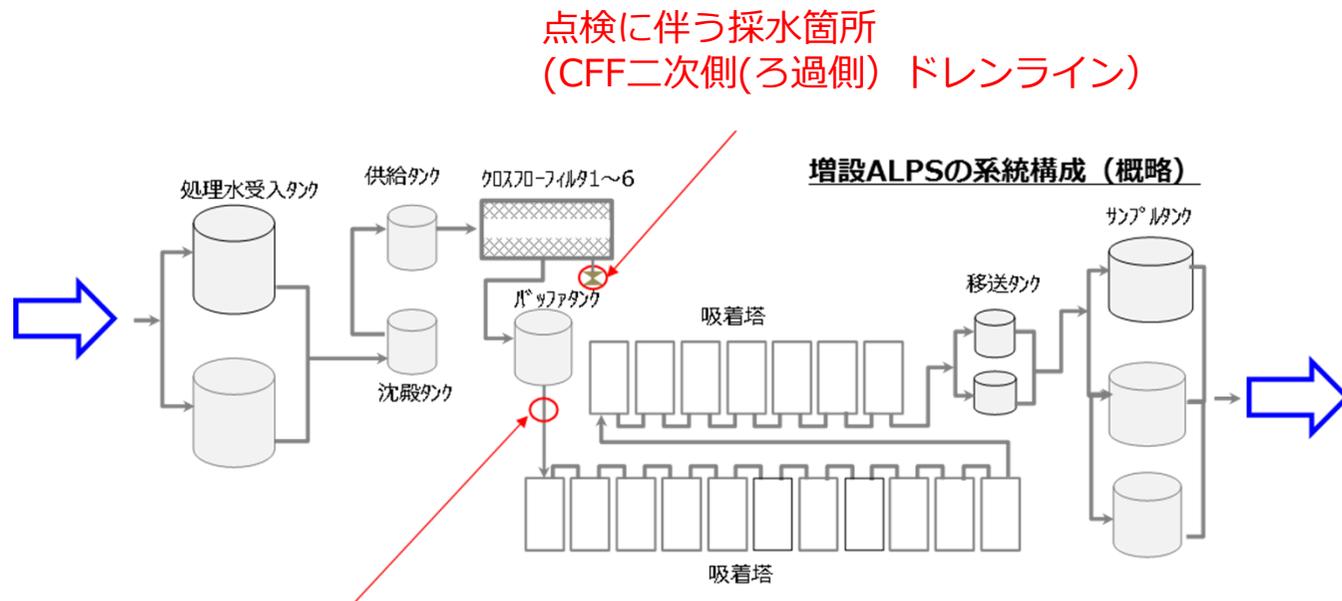
※バッファタンク出口水のカルシウム濃度の管理目安を10ppmとしているが、10ppmを超えた場合であってもすぐに吸着塔の吸着性能や装置出口の水質に影響を与えるものではありません。

<参考> 系統概略図および増設ALPS(A)(C)各CFFドレンライン水のCa濃度測定結果

増設ALPS(A)(C)CFF二次側ドレン水のCa濃度測定結果

	CFF1	CFF2	CFF3	CFF4	CFF5	CFF6
A系	隔離	12 ppm	隔離	12 ppm	14 ppm	隔離
C系	25 ppm	24 ppm	17 ppm	15 ppm	22 ppm	17 ppm

赤枠：白濁有



通常運転時採水箇所 (バッファタンク出口)

※運転中1回/1日採取

A系 Ca濃度：14 ppm (白濁なし)

C系 Ca濃度：17 ppm (白濁あり)

Ca濃度の管理目安：10ppm

